

平成27年度 胎内市外国語活動・英語部会 活動報告

部長 滝澤 富明

1 研究主題

主体的に活動に取り組む児童の育成 ～小中連携を通して～

2 研究の概要

小・中学校の英語教育にかかわる教師が、小学校外国語活動について理解する機会を設け、小学校でどのように授業に取り組むべきなのか、中学校では小学校で学習したことをどのように活かして実践を進めていくのかを、講演会と授業研究を通して探る。

3 研究の実際

(1) 小中連携講演会 会場 黒川小学校 参加者 15名

- ①講師 佐藤 貴子 様 (新潟市立山潟小学校 教頭)
- ②演題 「教科化を見据えて、変わらないもの、変わるもの」
- ③内容

- ・小学校外国語活動では、「Input なしには Output は無理」「類推する力と必然性が重要なこと」については変わらない。「5・6年生には『読む・書く』」「3・4年生には活動型」の追加が変わる。小学校では「感情」を大切にしている指導を行うこと。
- ・小中連携については、教師が「小・中の立場」で言い合うことが大切である。

(2) 授業研究会 会場 きのと小学校 参加者 14名

- ①授業者 木村 ルミ子 教諭 (きのと小学校)
- ②指導者 佐藤 貴子 様 (新潟市立山潟小学校 教頭)
- ③単元名 Hi, friends! 2 Lesson 5 「Let's go to Italy.」
- ④授業の視点と評価、指導者の指導内容



- ・ 「行ってみたい国」について尋ねたり言ったりする表現について、メインのクイズ作りに入る前に、単元の中に5つの手立て (①フラッシュカード, ②チャンツ, ③ ALT とのやりとり, ④国名ビンゴ, ⑤コンテンツと担任の発話の聞き取り) で Input させてから Output させたので、ターゲットの語彙や表現に慣れ親しむことができた。
- ・ 「単元を貫く課題意識」を設定し、「逆向き設計の単元構想」がなされていた。
- ・ 聞く必然があり、言いたくなる、意味のある活動が設定されていた。
- ・ 自分の行きたい国についての3ヒントクイズを作る活動を設定し、事前に用意した資料を活用したり担任・ALT の支援を受けたりしながら、次時の友だちとのコミュニケーション活動を行おうとする意欲を高めることができた。

4 成果と課題

(1) 成果

今年度は小学校外国語活動を中心に研修を行った。指導者を講演会と授業研究の2回お招きし、一貫したご指導をいただくことができた。例えば、小学校外国語活動では、「音」に慣れさせる活動が重要であることを事前にご指導いただいたので、授業公開の場面ではコンテンツのネイティブの発音を何度も聞かせ、実際に聞き取ったまま一斉に児童が発話することを大切にしている場面を展開することができた。

また、小中の教師と一緒に指導のポイントを共有し、また小学校の授業を参観したあとに協議を行うことで、いっそう小学校外国語活動についての理解を深められた。

小中の教師4名が指導案作成にかかわったことで、練りあげた指導案を作成することができたことも成果であった。

(2) 課題

数少ない研修の場である。この流れを継続し、研究を積み上げていきたい。